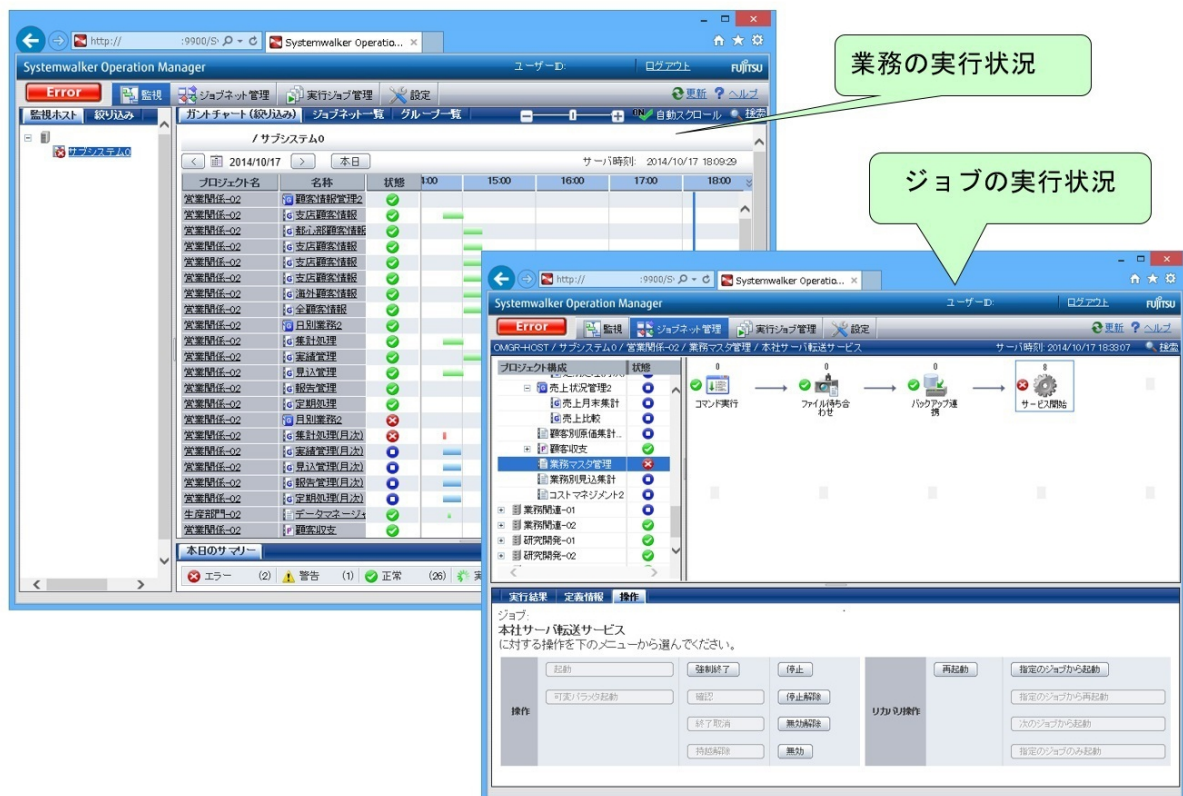


Fujitsu Software

Systemwalker Operation Manager Standard Edition V17.1.1

本商品は、業務の自動運転を実現する商品です。本商品を使用することで、ネットワーク (LAN/WAN) 上に分散配置された各サーバにおける定型業務のスケジューリング/実行監視/操作などが可能になり、業務運用のトータルな自動化、安定稼働と低コスト運用を実現することができます。バッチ業務の実行にあたっては、キュー制御や優先度制御などによるきめ細やかな制御も可能です。Standard Editionは、小規模から大規模な環境に対応した標準モデルです。

【業務の監視画面】



The screenshot displays the Systemwalker Operation Manager Standard Edition V17.1.1 interface. The main window shows a list of jobs and their execution status. A callout box points to the '業務の実行状況' (Job Execution Status) section, which displays a table of jobs and their progress. Another callout box points to the 'ジョブの実行状況' (Job Execution Status) section, which shows a detailed view of a specific job's execution steps and status.

業務の実行状況

ジョブの実行状況

- サーバ

PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / PRIMERGY / マルチベンダーサーバ・クライアント / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド

- リモートマシン（インストールレス型ジョブ実行制御機能を利用時）（詳細は留意事項を参照）

PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / PRIMERGY / マルチベンダーサーバ・クライアント / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド / その他

- クライアント

PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / PRIMERGY / FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント

- ・ **サーバ**

Windows Server 2025(64-bit) / Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) /
Windows Server 2016(64-bit)

- ・ **リモートマシン（インストールレス型ジョブ実行制御機能を利用時）（詳細は留意事項を参照）**

Windows Server 2025(64-bit) / Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) /
Windows Server 2016(64-bit) / Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64) / Red Hat Enterprise
Linux 8 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64) / その他

- ・ **クライアント**

Windows 11(64-bit) / Windows 10(64-bit) / Windows Server 2025(64-bit) / Windows Server
2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit)

1. システムの自動運転

(1) サーバの電源スケジュール

サーバの電源を自動的に投入 / 切断することができます。サーバの電源投入 / 切断は、あらかじめ登録したタイムスケジュールに従って行われます。

(2) サービス・アプリケーションの起動

サービスやアプリケーションの起動日を登録することにより、OSの起動時に登録したサービスやアプリケーションが指定の順序で自動起動できます。

2. 業務スケジュール

(1) 定型業務のスケジュール

定型業務をスケジュールすることで業務運用を簡素化し、オペレータの作業を大幅に軽減することができます。

- 年次、月次、週次、特定日などの業務の起動日をカレンダーで自由に指定できます。また、第1, 3, 5営業日(稼働日)といった一般業務形態での利用に沿った形で起動日の指定ができます。

- 起動時刻の設定により、業務を自動起動できます。

- 専用のエディタで複雑な業務も簡単な操作で構築できます。さらに、業務が異常終了した場合には、自動的にリカバリを行ったり、メールやポップアップメッセージで通知することも可能です。

- 飛び込み業務や緊急業務の起動、実行中業務の強制終了、保留や解除など、業務の制限を設定できます。プロジェクト単位での無効・無効解除・停止・停止解除操作も行うことができます。

- メッセージの待ち合わせによりサーバ間での業務の連携が可能です。他サーバからのファイル転送やメール受信を待ち合わせて自動起動することもできます。

- 指定した起動日だけ起動するジョブ(子ジョブネット)を含むジョブネットを作成することができ、より柔軟なジョブの自動運用を行うことができます。

〔スケジュール可能な業務〕

- サーバのバッチ業務

- バックアップ業務

- オンライン業務 (Interstageのワークユニット)

(2) クライアント業務のスケジュール

クライアントの業務(ファイルの転送、アプリケーションの起動、ファイルの圧縮 / 解凍)や電源投入 / 切断のスケジュールができます。

サーバ・クライアント間での連携した業務のスケジュールも可能です。

(3) ポリシー運用

運用方針(システムのスケジュールや業務の定義 / スケジュール等)を一台のサーバに定義し、ポリシーとして他のサーバに配付するだけで複数サーバの業務運用の定義がリモートから一括で行えます。

3. 業務運用

(1) ジョブの実行制御

バッチジョブのキュー管理によりジョブの順次実行を保証します。また、優先順位制御や同時実行数の制御によりバッチ処理によるシステム負荷を一定以下に抑えることができます。

- 業務に合わせたキューの設定により効率的にジョブを制御できます。

- システム全体で同時に実行するジョブの数を制限できます。

- キュー単位で同時に実行するジョブの数や投入ジョブ数を制限できます。バッチ業務運用の負荷を軽減し、システムの稼働効率が向上します。

- 複数のジョブ実行サーバをグループ化することにより負荷分散が行えます。

- 同一資源を使用する複数のジョブの排他制御が行えます。

- Systemwalker Operation Managerをインストールしていないリモートマシンへジョブの実行を依頼できません。リトライ動作のカスタマイズにより一時的なネットワーク異常時におけるエラーの回避や実行サーバがダウンしていた場合での迅速な異常の検知を行うこともできます。

(2) アクセス制御

ユーザーに権限を設定し、ユーザーの識別、認証により、プロジェクトやディレクトリ、ファイルに対するアクセス制御を行います。

(3) 業務の稼働状況の監視

スケジュールした業務の稼働状況や実行結果を状態別に色分けして監視画面に表示します。

(4) Webコンソールからの監視 / 操作

Systemwalker Operation Managerが導入されていないコンピュータからでもWebコンソールから業務の管理および制御ができます。監視だけでなく、業務が異常終了している場合には、再起動などの対処ができます。

(5) 想定稼働管理

業務の起動予定時刻および実行予測時間、終了予定時刻について想定通りに稼働しているか監視することができます。想定通りに稼働していない場合は、自動的にメッセージを通知することもできます。

また、Systemwalker Centric Managerと連携することで、Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバが監視しているネットワークやシステムの異常とあわせて業務の異常を監視し、Systemwalkerコンソール画面の該当イベントよりSystemwalker Operation Managerのクライアントを直接呼び出すことも可能です。

(6) アクションの自動実行

業務の稼働状況をイベント通知することで、Systemwalker Centric Managerと連携し、イベントの発生時にメール送信や対処するアプリケーションの起動といったアクションを自動的に行うことができます。

(7) 複数サーバの統括的な監視 / 操作

複数サーバのバッチジョブを単一画面で一括して監視 / 操作を行うことができます。

4. クラウドサービスなどからの実行サーバの増減

Systemwalker Operation Managerが提供するRESTインタフェースを利用して実行サーバの増減を行うことができます。

例えば、このRESTインタフェースをクラウドサービスで利用すると、クラウドサービスのオートスケーリングにともなって実行サーバを増減させるといった連携が可能になります。

5. 実績管理

(1) 実行結果の管理 / 分析

異常発生時の開始時刻や終了時刻、エラー事象、プログラム出力情報など、蓄積された実行結果を参照することができます。

業務の稼働実績情報をCSV形式で出力することができますので、Excelなどの表計算ソフトを利用したレポート作成が可能です。

また、Systemwalker Service Quality Coordinator との連携により、以下のバッチとリソースの関係を可視化することができます。

- ジョブ走行多重度とサーバリソースの関係
- 実行待ち状況とサーバリソース（全体 / ジョブのみ）の関係
- プロジェクトごとのジョブネットの走行多重度

(2) 監査ログの出力

業務の定義変更や、手動の操作を操作ログに記録します。

(3) 稼働実績の印刷

業務の実行予定、実行結果、ジョブネットの構成情報などを画面表示と同じイメージで印刷できます。

6. 大規模システム対応

(1) 大規模な業務スケジュール

大量のジョブネットが登録されたシステムでも安定したバッチ業務運用が行えます。

(2) 大規模な業務の登録・管理

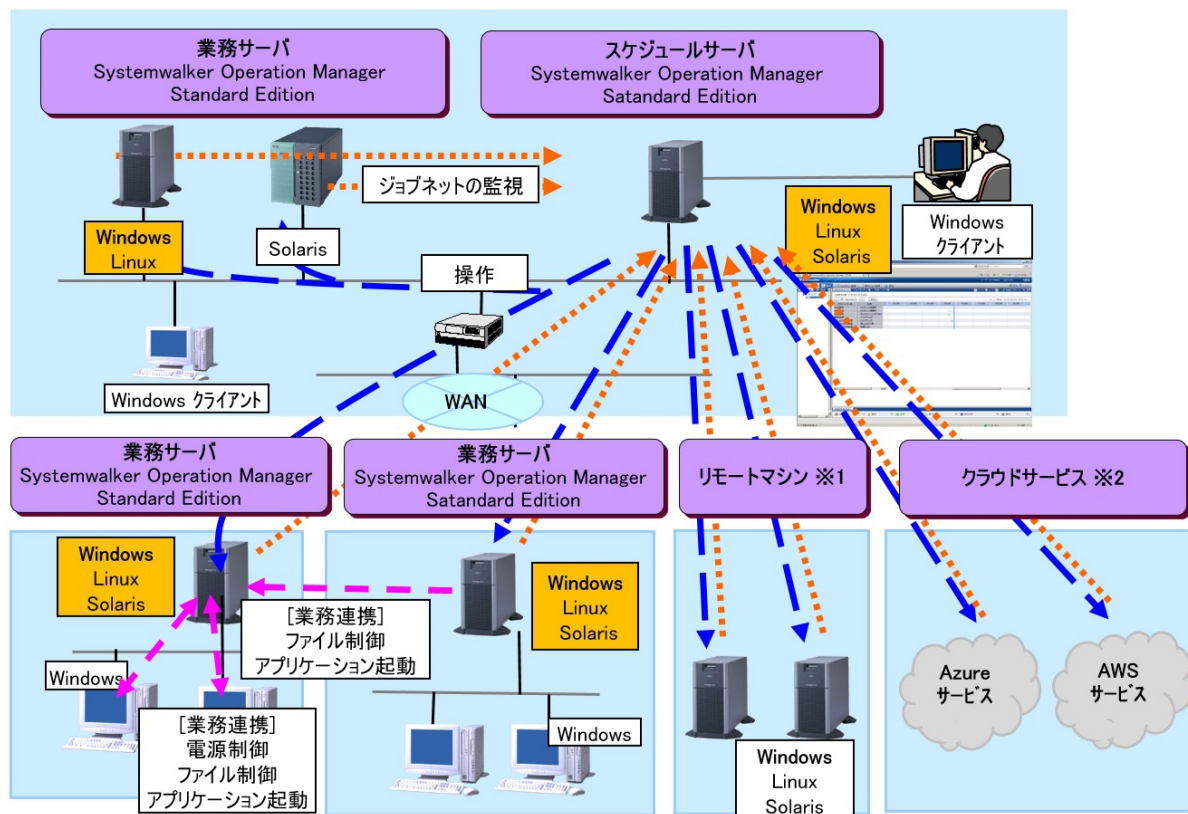
大規模な業務においても、CSVファイルからの大量のジョブネット登録などにより、管理が容易に行えます。

Job DesignerによりCSV ファイルを読み込むだけでジョブネット間の先行・後続関係を簡単に自動生成でき、作業の効率化が図れます。Job Designerはジョブネット設計書を作成することにも活用できます。ジョブフロー図など視覚的な情報が自動で作成でき、設計書の変更が効率的に行えます。

7. インストールレス型ジョブ実行制御

Systemwalker Operation Managerをインストールしていないリモートマシン上で、リモートマシン上のバッチファイル/シェルスクリプト、コマンド、実行プログラムを実行することができます。

リモートマシン上のバッチファイル/シェルスクリプト、コマンド、実行プログラムをジョブとして実行し、実行後の出力結果・終了コードを取得することができます。また、実行されたプログラムに対して強制終了操作が行えます。



※1) リモートマシンに依頼する場合はスケジュールサーバにV16.0以降をインストールする必要があります。
 ※2) クラウドサービスに依頼する場合はスケジュールサーバにV17.0以降をインストールする必要があります。

V17.1.0からV17.1.1の強化項目は以下のとおりです。

1. 新規環境への対応

Job Designer動作環境

新たに以下の環境に対応いたします。

- ・ Microsoft(R) Excel 2024(x86版/x64版)

- ・ オンラインマニュアル

- ・ オンラインマニュアルについては、留意事項の「オンラインマニュアルについて」を参照ください。

【メディア】

- ・ Systemwalker Operation Manager Standard Edition メディアパック (64bit) V17.1.1

【サブスクリプションライセンス/サポート】

[サブスクリプションライセンス/サポート(月額払い)]

- ・ Systemwalker Operation Manager Standard Edition プロセッサライセンス for Windows (SL&S)
- ・ Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Windows (SL&S)
- ・ Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Linux (SL&S)

[サブスクリプションライセンス/サポート(まとめ払い)]

- ・ Systemwalker Operation Manager Standard Edition プロセッサライセンス for Windows (SL&S) 7年
- ・ Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Windows (SL&S) 7年
- ・ Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Linux (SL&S) 7年

【永続ライセンス】

- ・ Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) (1年間24時間サポート付) V17 [Solaris版]

本商品の永続ライセンス製品には、初年度の「SupportDesk Standard」がバンドルされています。

1. メディアパックについて

メディアパックは、媒体（DVD）のみの提供です。使用権は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。初回購入時には、最低 1 本のメディアパックとサブスクリプションライセンス/サポートを同時にご購入ください。

本メディアパックの購入でバージョンアップ/レベルアップすることはできません。

バージョンアップ/レベルアップする場合は本メディアパックを購入せず、アップグレード権を行使してメディアを入手してください。

2. ライセンスについて

(1) プロセッサライセンスについて

プロセッサライセンスは、本商品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下のとおりに必要なライセンスです。

- ・シングルコアプロセッサの場合は、1プロセッサあたり1本の購入が必要です。
- ・マルチコアプロセッサの場合は、コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。

マルチコアプロセッサにおける係数については、「関連URL」に記載の「ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）」内、「ライセンスについて、くわしく知る」を参照ください。

なお、REST実行ジョブ()の利用にあたってはライセンスは不要です。

) RESTインタフェースが提供されているクラウドサービス上のジョブ(API)の実行/完了待ち合わせ/強制終了を行うジョブです。V17.0.0で追加された機能です。

(2) クライアントライセンスについて

Systemwalker Operation Manager Standard Editionでは、Systemwalker Operation Manager クライアントをインストールフリーで導入できます。

なお、サーバOS環境にクライアントのみをインストールすることはできません。

3. リモートマシン用ライセンスを購入する条件

以下の場合に、Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用)を購入してください。

- ・Systemwalker Operation Managerをインストールしないリモートマシン上のバッチファイル/シェルスクリプト、コマンド、実行プログラムを本商品のmjrmtjobコマンドを使って実行(「インストールレス型ジョブ実行制御」といいます)する場合、リモートマシン側のプロセッサ数に応じて購入してください。

なお、プロセッサ数の考え方については、購入方法2項「ライセンスについて」の「(1) プロセッサライセンスについて」を参照ください。

また、Systemwalker Operation ManagerをインストールしないリモートマシンのOSに合わせてライセンスを購入してください。

4. ダウングレード使用（旧バージョン商品の使用）について

本商品のライセンスでは、ダウングレード使用（本商品の旧バージョンを使用）する権利はありません。対象のバージョンを使用する場合は、対象のバージョンに対応したライセンスをご購入ください。

5. 購入時の特約事項

サブスクリプションライセンス/サポートの契約におけるライセンス使用条件の特約事項について記載します。

【V17.1.0以降】

[Systemwalker Operation Manager Standard Edition プロセッサライセンス for Windows (SL&S)に適用されるライセンス使用条件]

(1) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(2) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」第(1)号および第(2)号またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。

本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

(3) インストールレス型ジョブ実行制御について

お客様は、サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号にかかわらず、本製品等により、対象プログラムに含まれる「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用することはできません。「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用して管理対象コンピュータのジョブを実行する場合、お客様は別途当該機能に関するライセンスを購入する必要があります。

[Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Windows (SL&S) / Linux (SL&S)に適用されるライセンス使用条件]

(1) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(2) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」第(1)号および第(2)号またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。

本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

(3) 対象プログラムのインストールについて

サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号にかかわらず、本製品等により、お客様は対象プログラムをコンピュータにインストールすることはできません。

(4) インストールレス型ジョブ実行制御について

本製品等により、お客様は、対象プログラムに含まれる「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用して、日本国内の管理対象コンピュータに対象プログラムをインストールすることなく、ジョブを実行できます。この場合、当該管理対象コンピュータに搭載される中央処理装置（プロセッサ：CPU）の合計数はサブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数に限られるものとします。なお、ライセンス定義およびライセンス定義変更の場合の取扱に関しては、サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号に指定の「プロセッサライセンス定義書」に従うものとします。

【V17.0.0/V17.0.1】

[Systemwalker Operation Manager Standard Edition プロセッサライセンス for Windows (SL&S)に適用されるライセンス使用条件]

(1) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(2) インストールレス型ジョブ実行制御について

お客様は、サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号にかかわらず、本製品等により、対象プログラムに含まれる「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用することはできません。「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用して管理対象コンピュータのジョブを実行する場合、お客様は別途当該機能に関するライセンスを購入する必要があります。

[Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Windows (SL&S) / Linux (SL&S)に適用されるライセンス使用条件]

(1) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(2) 対象プログラムのインストールについて

サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号にかかわらず、本製品等により、お客様は対象プログラムをコンピュータにインストールすることはできません。

(3) インストールレス型ジョブ実行制御について

本製品等により、お客様は、対象プログラムに含まれる「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用して、日本国内の管理対象コンピュータに対象プログラムをインストールすることなく、ジョブを実行できます。この場合、当該管理対象コンピュータに搭載される中央処理装置（プロセッサ：CPU）の合計数はサブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数に限られるものとします。なお、ライセンス定義およびライセンス定義変更の場合の取扱に関しては、サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号に指定の「プロセッサライセンス定義書」に従うものとします。

永続ライセンスの契約におけるライセンス使用条件の特約事項について記載します。

[Solaris版Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) (1年間24時間サポート付)に適用されるライセンス使用条件]

(1) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、ライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(2) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。

本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

(3) 対象プログラムのインストールについて

ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号にかかわらず、本製品により、お客様は対象プログラムをコンピュータにインストールすることはできません。

(4) インストールレス型ジョブ実行制御について

本製品により、お客様は、対象プログラムに含まれる「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用して、日本国内の管理対象コンピュータに対象プログラムをインストールすることなく、ジョブを実行できます。この場合、当該管理対象コンピュータに搭載される中央処理装置（プロセッサ：CPU）の合計数はライセンス条件説明書に定めるライセンス数に限られるものとします。なお、ライセンス定義およびライセンス定義変更の場合の取扱いに関しては、ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号に指定の「プロセッサライセンス定義書」に従うものとします。

6. 購入例

以下に示すシステム構成の場合、購入対象商品と購入数は下記のようになります。

(A) 購入例1 インストールレス型ジョブ実行制御機能を利用しない場合

〔システム構成〕

サーバ(2コア、1CPU構成):2台

サーバ(2コア、2CPU構成):2台

〔対象商品と購入数〕

- Systemwalker Operation Manager Standard Edition メディアパック (64bit) V17.1.1

必要数分

- Systemwalker Operation Manager Standard Edition プロセッサライセンス for Windows (SL&S) (2コア×1CPU×コア係数)×2台分 + (2コア×2CPU×コア係数)×2台分

(B) 購入例2 インストールレス型ジョブ実行制御機能を利用する場合

〔システム構成〕

サーバ(2コア、2CPU構成):1台

リモートマシン(Windows、2コア、1CPU構成):1台

リモートマシン(Linux、2コア、1CPU構成):1台

リモートマシン(Solaris、2コア、1CPU構成):1台

〔対象商品と購入数〕

- Systemwalker Operation Manager Standard Edition メディアパック (64bit) V17.1.1 (必要数分)

- Systemwalker Operation Manager Standard Edition プロセッサライセンス for Windows (SL&S) (2コア×2CPU×コア係数)×1台分

- Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Windows (SL&S) (2コア×1CPU×コア係数)×1台分

- Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Linux (SL&S) (2コア×1CPU×コア係数)×1台分

- Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) V17 [Solaris版] (2コア×1CPU×コア係数)×1台分

7. サブスクリプションライセンス/サポートでの最新プログラムの提供について

サブスクリプションライセンス/サポート契約の一環として、最新バージョン/レベルのプログラムを提供いたします。

(お客様からのご要求が必要です。)

1. クラウドサービス連携

クラウドサービスのアプリケーションのスケジューリングや、クラウドサービスからの通知に基づいてホストグループへのサーバ追加/削除を行う場合の連携可能なクラウド環境、サービスについては、「Systemwalker Operation Manager 解説書」の「対応クラウド環境」をご覧ください。

2. Systemwalker Centric Manager連携

Systemwalker Centric Managerでジョブネットの実行状態を監視する場合、以下のいずれかの商品のエージェント機能を同じサーバ上に共存させる必要があります。

- Systemwalker Centric Manager Standard Edition V15.2.1以降
- Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V15.2.1以降

3. Systemwalker Service Quality Coordinator連携

Systemwalker Service Quality Coordinatorと連携し、バッチとリソースの関係を可視化する場合、以下のいずれかの商品のエージェント機能を同じサーバ上に共存させる必要があります。

- Systemwalker Service Quality Coordinator Enterprise Edition V15.1.1以降
- Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Edition V15.1.1以降

4. SAP ERP との連携

SAP ERPジョブ をSystemwalker Operation Managerを使ってスケジュールする場合、以下の商品が必要です。

- Systemwalker for ERPパッケージ ジョブ連携 V16.0.0以降

連携可能なSAP ERP のバージョン/レベルについては以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker for ERPパッケージ ジョブ連携ガイド SAP ERP 編

5. バックアップ連携

バックアップ連携を使用する場合、以下のいずれかの商品が必要です。

- Arcserve Backup r17.5 for Windows - Japanese
- Arcserve Backup r18.0 for Windows - Japanese

6. Job Designer機能の使用環境

Job Designer機能を利用してジョブネットの作成を行う場合、以下のソフトウェアならびに動作環境が必要です。

〔必要ソフトウェア〕

- Microsoft Excel 2016(x86版/x64版)
- Microsoft Excel 2019(x86版/x64版)
- Microsoft Excel 2021(x86版/x64版)
- Microsoft Excel 2024(x86版/x64版)
- Excel for Microsoft 365(x86版/x64版)

〔動作環境〕

CPU:2 GHz 以上の x86 または x64 プロセッサ (SSE2 命令セットに対応)

メモリ:512 MB の RAM

ハードディスク空き容量:100 MB の空きディスク領域

7. 仮想環境での運用について

仮想環境での運用を行う場合、以下のソフトウェアが必要です。

- VMware vSphere 7
- VMware vSphere 8
- Windows Server 2016 Hyper-V
- Microsoft Hyper-V Server 2016
- Windows Server 2019 Hyper-V
- Microsoft Hyper-V Server 2019
- Windows Server 2022 Hyper-V
- Windows Server 2025 Hyper-V
- Red Hat Enterprise Linux 8 仮想マシン機能
- Red Hat Enterprise Linux 9 仮想マシン機能

8. インストールレス型ジョブ実行制御機能を使用する場合

インストールレス型ジョブ実行制御機能を使用する場合は、リモートマシン上にSSH V2.0以上が必要となります。

- リモートマシンのOSがLinuxまたはSolarisの場合

OSの標準機能としてインストールされています。SSHがインストールされていない環境では、OpenSSHをインストールしてください。

- リモートマシンのOSがWindowsの場合

SSHがインストールされていない環境では、OpenSSH(cygwin OpenSSH V1.7以上)をインストールしてください。

= 注意事項 =

リモートマシンの動作OSが以下の場合、リモートマシンのWindows Defender Exploit Guardを無効にしてください。有効にするとCygwinの起動に失敗します。

- Windows Server 2025(64-bit)
- Windows Server 2022(64-bit)
- Windows Server 2019(64-bit)

なし

1. Windows サーバOS (64-bit)上での動作

本商品のサーバは、以下のOSで64ビットアプリケーションとして動作します。

- Windows Server 2016(64-bit)
- Windows Server 2019(64-bit)
- Windows Server 2022(64-bit)
- Windows Server 2025(64-bit)

2. Windows デスクトップOS (64-bit)上での動作

サーバの環境設定ならびにジョブ定義用としてWindowsクライアントが必要です。クライアントは、以下のOSのWOW64(注)サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

- Windows 10(64-bit)
- Windows 11(64-bit)

注) Windows 32-bit On Windows 64-bit

3. 共存できないソフトウェアについて

本商品の共存できないソフトウェアに関する情報は、マニュアルの「解説書」をご覧ください。

マニュアルについては、「関連URL」に記載の「ソフトウェア：富士通（マニュアル）」を参照してください。

4. リモートマシン用ライセンスの適応機種/適応OS

〔Windows版〕

以下の機種で動作可能です。

- PRIMEQUEST 4000シリーズ
- PRIMEQUEST 3000シリーズ
- PRIMEQUEST 2000シリーズ
- PRIMERGY
- マルチベンダーサーバ・クライアント
- FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS
- FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン
- パブリッククラウド

以下のOSで動作可能です。

- Windows Server 2025(64-bit)
- Windows Server 2022(64-bit)
- Windows Server 2019(64-bit)
- Windows Server 2016(64-bit)

〔Linux版〕

以下の機種で動作可能です。

- PRIMEQUEST 4000シリーズ
- PRIMEQUEST 3000シリーズ
- PRIMEQUEST 2000シリーズ
- PRIMERGY

- マルチベンダーサーバ・クライアント
- FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS
- パブリッククラウド

以下のOSで動作可能です。

- Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)

〔Solaris版〕

以下の機種で動作可能です。

- SPARC Servers
- SPARC Enterprise Mシリーズ
- SPARC Enterprise Tシリーズ
- マルチベンダーサーバ・クライアント
- FUJITSU Cloud Service for SPARC
- パブリッククラウド

以下のOSで動作可能です。

- Solaris 11(64bit)

5. IPv4ネットワーク/IPv6ネットワークの混在環境について

(1) 動作可能な通信環境

Systemwalker Operation Manager V13.6.0においてIPv6に対応しました。Systemwalker Operation Managerは、以下の環境で利用可能です。また、ネットワーク上で通信環境が混在する場合においても、Systemwalker Operation Managerを利用して、業務運用することができます。

- IPv4環境
- IPv6環境(*1)
- IPv4/IPv6デュアルスタック環境(*2)

*1)

- IPv4プロトコルを無効にした環境を指します。IPv4をアンインストール(netsh interface ipv4 uninstall)しないでください。【WindowsサーバおよびWindowsクライアントの場合】
- Systemwalker Operation Managerで業務運用する場合に、使用可能なIPv6アドレスの種類は、以下のとおりです。
 - ・ グローバルユニキャストアドレス
 - ・ ユニークローカルユニキャストアドレス

*2)

- IPv4/IPv6デュアルスタック環境において、Systemwalker Operation Managerは、IPv4アドレスを優先的に使用します。

V13.4.0以前のSystemwalker Operation Managerサーバとも接続することができます。この場合もIPv4アドレスを使用します。

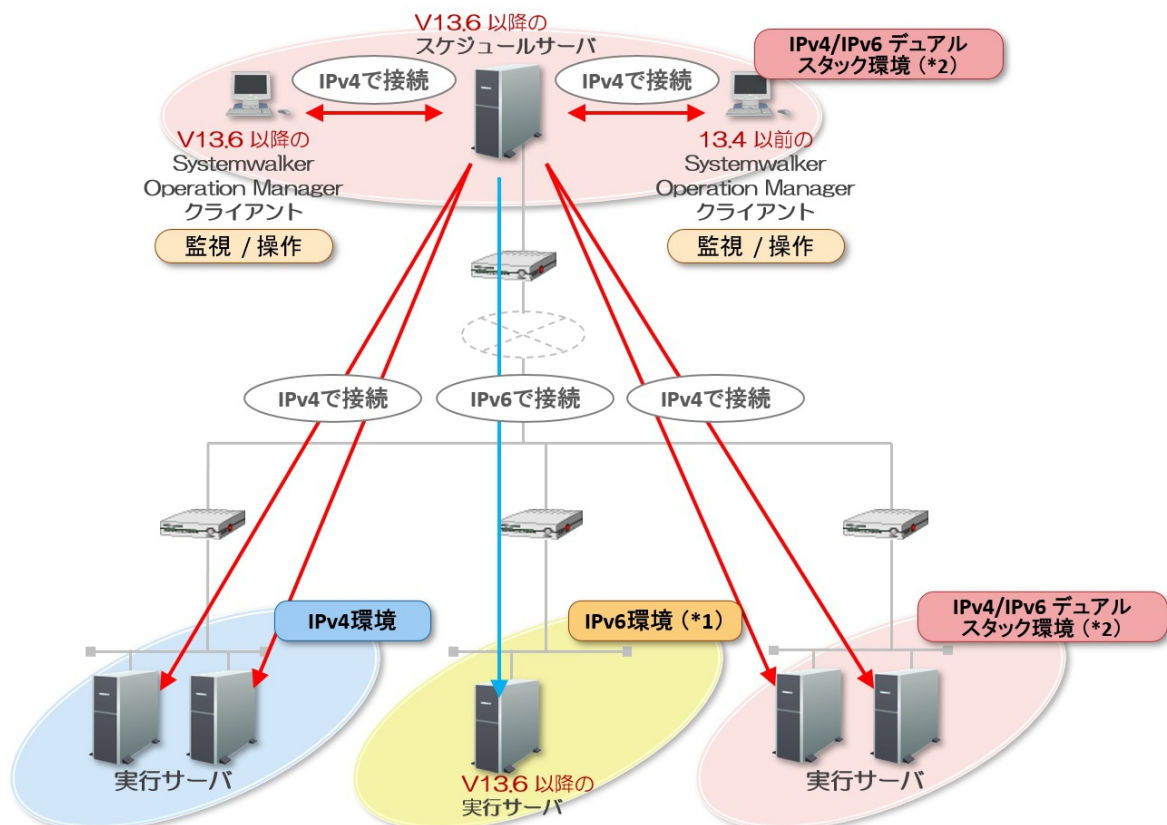
- IPv4/IPv6デュアルスタック環境で、Systemwalker Operation Managerのサーバを運用する場合、サーバの“hosts”ファイルに、自ホストのホスト名に対するIPv4アドレスとIPv6アドレスの両方を定義してください。

なお、Systemwalker Operation ManagerクライアントとSystemwalker Operation Managerサーバ接続のサポート範囲につきましては、マニュアル「Systemwalker Operation Manager 解説書」の「クライアント・サーバ接続のサポート範囲」をご覧ください。

(2) V13.4.0以前の複数サーバ監視クライアントから複数サーバ監視を行う場合

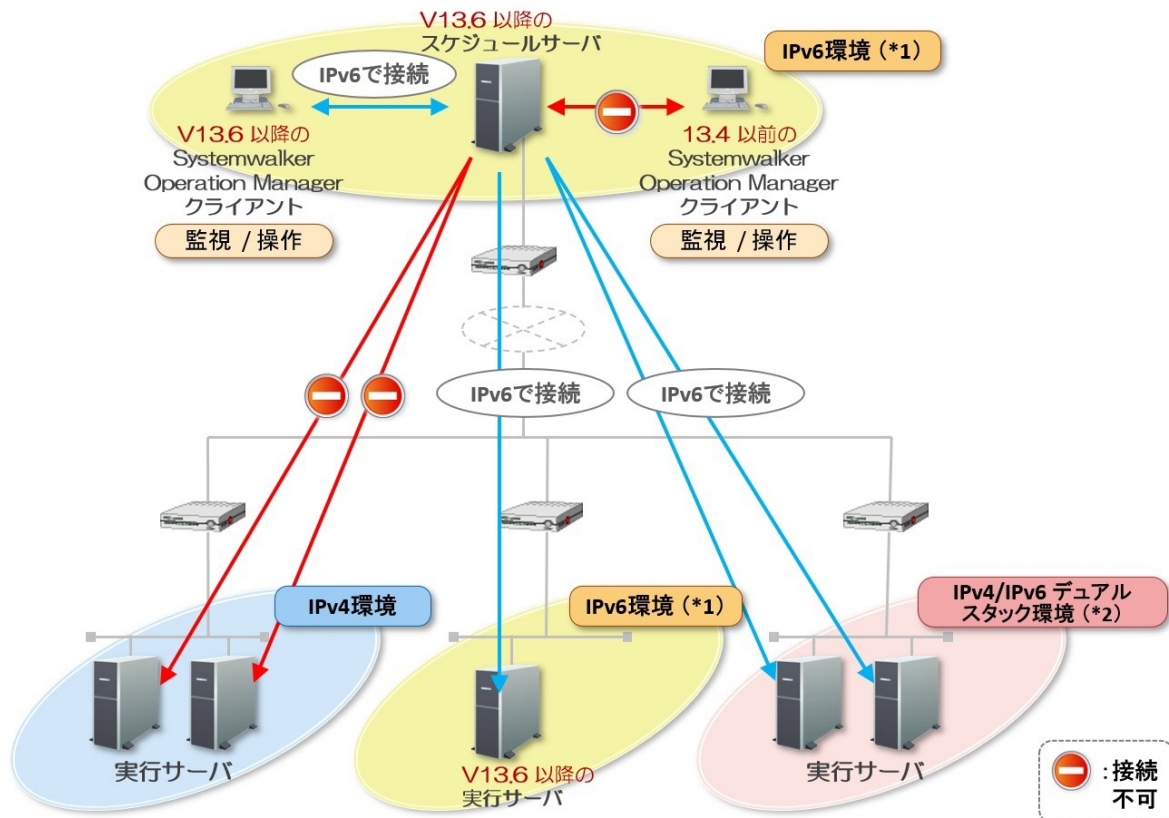
IPv6で通信している監視対象サーバが存在する場合、IPv4で通信している監視対象サーバを含むすべての監視対象サーバについて複数サーバ監視ができません。

ネットワーク上で通信環境が混在する場合の接続例(その1)

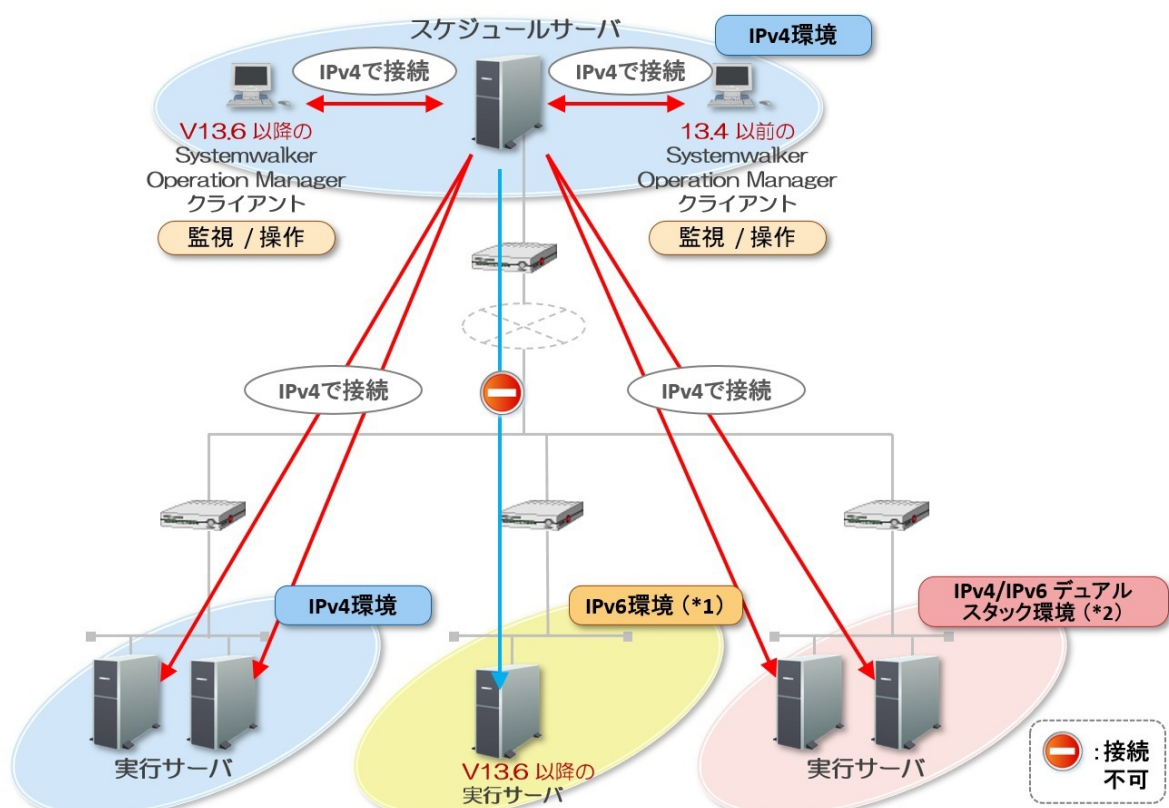


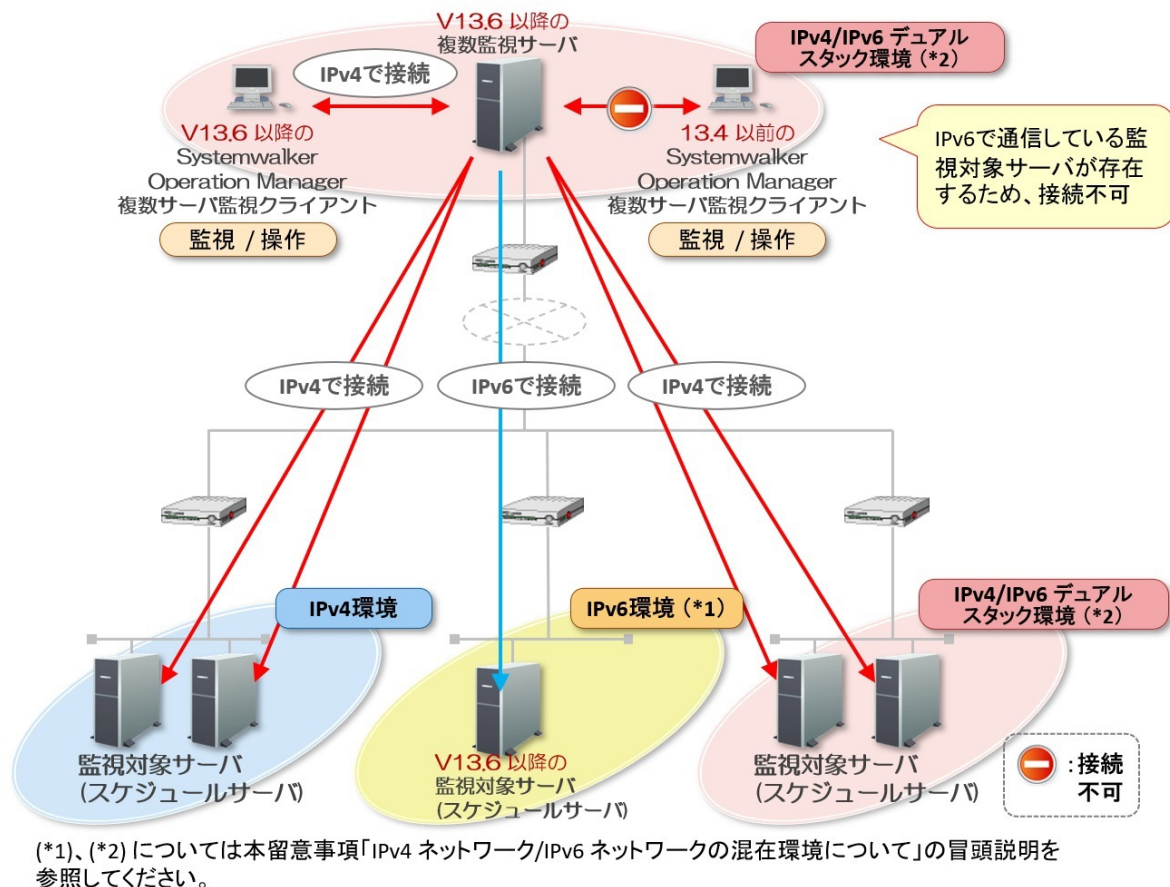
(*1)、(*2)については本留意事項「IPv4 ネットワーク/IPv6 ネットワークの混在環境について」の冒頭説明を参照してください。

ネットワーク上で通信環境が混在する場合の接続例(その2)



ネットワーク上で通信環境が混在する場合の接続例(その3)





6. IPv6環境での動作について

(1) 入出力におけるIPv6アドレスの表記について

Systemwalker Operation Managerでは、IPv6アドレスを使用する場合の画面入出力、コマンド入出力、メッセージ出力、ログ/トレース出力において、以下のIPアドレス表記をサポートしています。

- 非省略表記 ()

例 => 2001:0db8:0000:0000:0123:4567:89ab:cdef

- 省略表記 ()

例 => 2001:0db8::0123:4567:89ab:cdef (“ 0000 ” のフィールドを省略)

- RFC 5952準拠表記

例 => 2001:db8::123:4567:89ab:cdef

英字部の大文字 / 小文字 / 大小文字混在表記が可能です。

(2) Webコンソールで使用するWebサーバについて

IPv6環境上には、Webコンソールで使用するWebサーバを構築できません。

このため、IPv6環境で運用する場合は、Windowsクライアントで監視を行ってください。

(3) 電源制御機能について

IPv6対応の電源制御装置および電源制御ソフトウェアが存在しないため、電源投入機能はIPv6環境に対応していません。

(4) 複数サーバ監視時の監視ホストの設定について

複数のSystemwalker Operation Managerサーバを監視する運用では、監視サーバと監視対象サーバとの間で、それぞれの監視ホストの定義と監視許可ホストの定義のインターネットプロトコルのバージョンが一致している場合に利用することができます。

(5) クライアント電源投入コマンドについて

IPv6環境においては、PONCLI.EXEおよびponcli 電源投入コマンドは使用できません。IPv4環境、またはIPv4/IPv6デュアルスタック環境で使用してください。

7. クラスタ運用について

本商品は、クラスタ運用をサポートしていません。クラスタ運用する場合は、Systemwalker Operation Manager Enterprise Editionをご利用ください。

8. Webブラウザについて

Systemwalker Webコンソールを使用する場合、クライアント環境に以下のWebブラウザが必要です。

Microsoft Internet Explorer 11 (1)

Microsoft Edge(Chromium ベース)のIEモード (2)

1) デスクトップ版Internet Explorerでの利用が可能です(Microsoft Edgeでは利用できません)。Microsoft Internet Explorer 11は以下のOSで動作可能です。

- Windows Server 2022
- Windows Server 2019
- Windows Server 2016

2) Microsoft Edge(Chromium ベース)のIEモードは以下のOSで動作可能です。

- Windows Server 2025
- Windows 11
- Windows 10

9. 旧バージョンとの整合性について

(1) クライアントから旧版のサーバに接続を行う場合、以下の注意が必要です。

- 旧版のサーバで提供されていない機能は使用できません。
- SystemWalker/OperationMGR SE V5.0L30以前のクライアントからSystemwalker Operation Manager Enterprise Edition、もしくは、SystemWalker/OperationMGR EEのサーバへは接続できません。

(2) 旧版のクライアントからは、今版のサーバに接続できません。

10. Web コンソール/Web APIの暗号化通信について

Web コンソール/Web APIの暗号化通信(SSL: Secure Socket Layer)の利用時に、証明書を作成するためには、認証局(証明書発行局)が必要です。扱える証明書の種類については、「Systemwalker Operation Manager 解説書」の「関連ソフトウェア」をご覧ください。

11. Interstage連携について

Interstage属性のジョブを起動させる場合、64ビット版のInterstage Application Serverと組み合わせる必要があります。

なお、連携可能なInterstage Application Serverのバージョンレベルおよびワークユニットについては、「Systemwalker Operation Manager 解説書」の「関連ソフトウェア」をご覧ください。

12. サーバの電源制御について

サーバの電源を制御する場合には、電源制御装置、および、それに対応したソフトウェアが必要です。必要なハードウェア・ソフトウェアについては、「Systemwalker Operation Manager 解説書」の「ハードウェア資源」をご覧ください。

13. クライアントの業務連携について

クライアント業務連携機能でクライアントの電源制御を行う場合、以下のハードウェアが必要です。

〔クライアントの電源投入〕

以下のすべての条件を満たすハードウェアが必要です。

- ・ Wakeup on LANをサポートしている機種である。
- ・ Wakeup on LANをサポートしているLANカードが実装されている。
- ・ Wakeup on LANによる電源投入がBIOSレベルで有効になっている。

〔クライアントの電源切断〕

以下のいずれかの条件を満たすハードウェアが必要です。

- ・ APM(Advanced Power Management)
- ・ ACPI(Advanced Configuration & Power Interface)をサポートしている機種で、かつ、Windowsからの電源切断が可能になっている。

14. Job Designerツールについて

Job Designerツールを使用する場合、Excelのメニューバー（リボン）は、使用しないでください。使用した場合は、セルの情報が書き換えられ、正常にオペランドのチェックやジョブネット定義CSVファイルが出力されないことがあります。

15. インストールについて

本商品はDVDで提供されます。

インストールにはDVDドライブユニットが必要です。

DVDドライブユニットが搭載されていないマシンの場合は別途手配が必要です。

DVDドライブユニットを入手できない場合は、Windowsのファイル共有を利用したネットワークインストールが可能です。（ただし、ローカルのDVDドライブユニットと比べて作業時間を要します。）

16. パッケージ構成について

Systemwalker Operation Manager Standard Edition メディアパックには、以下のプログラムおよびマニュアルが同梱されています。

- サーバ/クライアント用プログラム
- クライアント用プログラム()
- オンラインヘルプ
- オンラインマニュアル
- ソフトウェア説明書

・ クライアント機能をクライアントOSにインストールする場合は、クライアント用プログラムをご使用ください。

・ サーバ/クライアント用プログラムのクライアント機能は、サーバ機能と共存時にのみインストール可能です。

17. オンラインマニュアルについて

オンラインマニュアルは以下の通りです。

- ・ Systemwalker Operation Manager マニュアル体系と読み方
- ・ Systemwalker Operation Manager リリース情報
- ・ Systemwalker Operation Manager 入門ガイド
- ・ Systemwalker Operation Manager 解説書
- ・ Systemwalker Operation Manager 活用ガイド
- ・ Systemwalker Operation Manager 導入ガイド
- ・ Systemwalker Operation Manager 設計ガイド
- ・ Systemwalker Operation Manager 運用ガイド

- Systemwalker Operation Manager 移行ガイド
- Systemwalker Operation Manager リファレンス集
- Systemwalker Operation Manager メッセージ集
- Systemwalker Operation Manager 用語集
- Systemwalker Operation Manager トラブルシューティングガイド
- Systemwalker Operation Manager Q & A 集
- Systemwalker Operation Manager マスタスケジュール管理 ユーザーズガイド
- Systemwalker Operation Manager Webコンソール操作ガイド
- Systemwalker Operation Manager Job Designer ユーザーズガイド
- Systemwalker Operation Manager クラスタ適用ガイド Windows編
- Systemwalker Operation Manager クラスタ適用ガイド UNIX編
- Systemwalker Operation Manager Global Enterprise Edition ユーザーズガイド

18. エディションおよび動作OSによる機能差について

エディションおよびOSの機能差につきましては、マニュアル「Systemwalker Operation Manager 解説書」の「OS別機能差一覧」をご覧ください。

19. 前版との違いについて

以下の環境については、サポート対象外となります。

- VMware vSphere 6（仮想化環境）

お客様向けURL

- ・ **ソフトウェア：富士通（Systemwalker Operation Manager）**

製品概要や動作環境、導入事例、価格等、製品紹介資料を幅広く提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/software/systemwalker/operationmgr/>

- ・ **ソフトウェア：富士通（ソフトウェアの一覧表（システム構成図）と各種対応状況）**

価格/型名の一覧（システム構成図）を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/condition/configuration/>

- ・ **ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）**

「ライセンスについて、くわしく知る」の項で、富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポートポリシーなどの情報を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/information-download/>

- ・ **ソフトウェア：富士通（マニュアル）**

富士通のソフトウェア製品に添付されているマニュアルが閲覧できます。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/manual/>